

放送人の会

No.61
2013.5.24

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階 Tel. & fax 03-3221-0019 Mail info@hosojin.com

発行 一般社団法人・放送人の会 会長 今野 勉

編集担当 伊藤雅浩 (広報委員長・編集長)、鈴木典之、前川英樹 (HP担当)、松尾羊一 事務局 佐藤真美子、須斎恵美子

放送人グランプリ 2013(第12回)贈賞式



写真 後列左から	寒河江正	中島僚	関佳史	永野真一	川口尚宏	奥田創史
前列左から	玉井和雄	渡辺真理	高山仁	西村美智子	今野勉 (敬称略)	

2013年度(第12回)放送人グランプリの贈賞式が5月11日(土)、NHK青山荘1階けやきの間で行われた。

グランプリはNHKスペシャル・シリーズ東日本大震災「追跡 復興予算19兆円」制作スタッフで、ほかに7本の賞が贈られた。(2ページ参照)

会場には受賞者と多数の関係者がかけつけ、賑やかな贈賞式となり、式の後の懇親パーティーも大いに盛り上がった。

開会の挨拶で、放送人の会今野勉会長は左記のように挨拶した。

「この放送人グランプリは放送人が放送人へ贈るもので、先輩がいれば身内の後輩に敬意と感謝をこめて贈る賞です。今年には8本と多いのですが、選考委員の熱意がこの本数にしてしまいました。この後、選考委員がその思いを切々と語りません。厳しい言葉もあるかもしれませんが、その後、受賞者の方と話して頂きます。その響きあう言葉の交流がこの授賞式の伝統なのです。よろしくお願いします。」

グランプリ

NHKスペシャル シリーズ東日本大震災「追跡 復興予算19兆円」制作スタッフ様

(2012年9月9日(日) 21・00)

21・58放送 NHK

被災地復興に必要な巨額の復興予算のうち、10・5兆円は今後の増税負担でまかなわれるが、一方被災地からは、復興が一向に進まないという悲鳴があがっている。

番組では第3次補正予算9兆円の使われ方を徹底追跡し、5万ページをこえる資料を精査、予算のついた500事業のうち205事業が震災とは無関係であることとあばいている。日本の上部構造の体質があまり出される結果となり、各方面に大きな衝撃を与えた。タイムリーな企画であると同時に、調査報道の手法ともいえる力作である。

優秀賞

「復興の狭間で」神戸まちづくりの教訓(朝日放送)西村美智子様

(2012年10月9日(日) 20・00)

21・00放送 朝日放送

神戸市長田区で、「復興」の名のもとに建てられた再開発高層ビルが、入居者の「生活」をおしつぶしている。高層ビルの下で、地域の商店街はシャッター通りと化し、いま露わになった公共事業の冷酷さが、気仙沼をはじめ東北の被災地にも襲いかかるように思えるのだ。性急

すぎた復興計画のもたらすひずみをあきらかにした、警告ドキュメンタリーとしての鋭利で新鮮な切り口を讃えて。

奨励賞

「衆院選スペシャル：池上彰の総選挙ライブ」特別番組チーム様

(2012年12月16日(日) 19・54)

24・24放送 テレビ東京 TXN衆院選SP)

選挙開票速報を知的エンターテインメント番組に仕上げた。この日はかりはふだんあつかましい候補者も緊張し、投票者が文字通り主人公であり、政治劇を見守る観客にもなる。池上彰は、刻々と変化する情報を事前に用意したさまざまなしかりかけで巧みに分類整理し、生放送の強みを活かしたおもしろいニュースショーに仕立てた。

奨励賞

「あの名曲を方言で」全日本なまり歌トーナメント(テレビ朝日)制作スタッフ様

(2013年1月1日(日) 23・40)

1・30放送 (2013年3月31日放送)

誰もが知っている名曲を方言に変換して熱唱！それだけのことが、あの「NHKのど自慢」の牙城に迫るのでは、と感じさせるほど。出場者本人が歌詞を(英語も含めて)方言に訳して熱唱。たとえば「ラブ・イズ・オーヴァー」を秋田弁にすると「ラブ・愛なばしめななだ」、「終わりにしよう」は

「トしぺことするべ」となる。歌唱力も高く、真剣なところがいい。なまりつついいな、故郷つついいな！心があたたかくなる番組である。

企画賞

NHK東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」制作スタッフ様

(2011年5月) ステーションプレイクで放送中 NHK

番組と番組のせまい隙間にはさまった透明な歌声が、こんなにも人の心に響くのか。「花は咲く」——東北出身のタレントたちが、手に一輪の花をささげ合唱する調べは被災地に届き、全国に流れ、さらに多くの人々が口ずさみ、甲子園球児の行進曲にまでなった。あらためて歌の力、放送の力を教えてくれた。編成企画の勝利である。(作詞・岩井俊二 作曲編曲・菅野よう子)

特別賞

ドキュメンタリードラマ「希望の翼」あの時、ぼくらは13歳だった」制作スタッフ様

(2013年3月2日(土) tvk放送、3月27日(水) 再放送、2時間)

日本統治下の朝鮮でめばえた二人の少年の友情が、41年後の再会で復活、両国の文化交流につくす実話を、A歴史認識問題もふまえ、すぐれた日韓共同制作ドキュメンタリードラマに結実させた。かつてのU局テレビ神奈川(tvk)が創立40周年を記念して韓国KBSと共同制作・放送。(原

作・寒河江正、羅逸星、監督・福本義人 総合監督・大山勝美、出演 国広富之、金淳次、黒田福美ほか)

特別賞

渡辺真理様「BS歴史館」の司会

(「BS歴史館」(木) 20・00~21・00

歴史上の事件や人物をテーマに、専門研究者と歴史好きが座談形式で蘊蓄を傾け、新しい評価も試みる教養エンターテインメントだが、同種企画よりおもしろい番組にしているのは、司会の渡辺真理の功績である。好奇心のオーラを発散させながらたくみなさばきで座を盛り上げ、緊要な飯説を引き出す構成力を評価したい。

特別功労賞

玉井和夫様 音響効果への長年の貢献 (元文化放送効果班)

1954年入社。音響効果マンとして(定年後も嘱託として)、すばらしい効果音を創りつづけてきた。ラジオドラマ「戦艦大和ノ最期」(1965年)の46サンチ砲の砲声は、今でも「本物の大和の砲声」としてカセットテープ音声に関係者に出回っているほどだ。手塚治虫の「火の鳥」では、火の鳥が宇宙を飛翔する音(宇宙には空気がないので本当は音がない)を創りあげるなど、ラジオにおける効果音の、豊かなイメージの世界に挑み続けた。2013年3月引退。長年の「音の匠」玉井氏の仕事に深い敬意を表して。

【選考経過】 堀川とんこう選考委員長



放送人の会が勝手に選んで、さしあげる賞だということです。ある日突然、「あなたに賞を贈ります」という電話が舞い込むので驚かれる方が毎回あります。放送人が選ぶ特別の思いが受賞なさる方に伝わればと思います。

4月1日に選考委員会を行い、熟議の結果ご覧のような賞をお贈りすることになりました。この賞にはこの業界で長年仕事をしてきた先輩たちの熱い思いがこめられています。後輩の皆さんに「よくぞこんな面白い、素敵な番組を作ってくれた」の感謝と敬意あらわしている賞です。賞金はなく、琉球ガラスで作ったトロフィーだけです。どうぞ先輩たちがこの賞にこめる思いを受け取ってください。

それぞれの番組については選考委員（河野尚行、藤久ミネ、松山珠美、鈴木典之、石井彰）の皆さんに、どうしてこの番組を選んだのかを話して貰います。それぞれに番組を割り振りましたが、その委員が当該の番組を選んだわけではありません。その番組を論じるのにふさわしい人に話して貰うことにしました。

【受賞理由説明】

グランプリ NHKスペシャル「復興予算19兆円」（NHK総合）

堀川 これは東日本復興予算19兆円の行方を追ったドキュメンタリーです。正確に言えばそのうちの10・5兆円を追ったもので、3次補正予算の使われ方を5万ペーじを超える資料を精査、検証したものです。500にのぼる事業に予算が配分されているのですが、そのうちの205事業は震災と関係がないということをつきとめ、全体の4分の1の予算が不思議な使われ方をしている。例えば沖縄の道路建設に5億円、受刑者の技術教育、コンタクトレンズの工場建設などに大きなお金が投じられている。つまり各省庁が群がって首をかしげたくなるような予算の使い方をしていることを暴いた。

つい一昨日も2・5兆円の「隠し部屋」というのが発見されました。各省の公益法人の基金を「隠し部屋」に入れるとそこからお金を引き出すと使途を問われないという不思議な仕組みを役人は考えだし、とんでもないお金の使い方がなされていると報道されていました。おそらくNHKが作ったこの19兆円の番組の後追いだろうと思います。

これを見ているとむかむかしてきます。体によくないのですが、われわれに多くの教訓を与えてくれた優れた番組です。

優秀賞 「復興の狭間で」神戸まちづくりの教訓（朝日放送）

藤久ミネ 会長からも堀川さんからもこの

賞は先輩が後輩の優れた仕事に敬意と感謝を表して



さしあげる賞だと言っておられましたが、先輩として後輩に敬意を表することが

出来て大変喜んでいました。

半世紀というといささかオーバーですが、40年ほど前に朝日放送に在籍したことがありますので後輩に当たる西村美智子さんの「復興の狭間で」について話します。

私は古い人間なので、この番組を拝見したとき中学生の時習った漢文の中の「礼記」という中国古典の一節を思い出しました。「苛政は虎よりも猛し」という言葉です。苛酷な政治は人食い虎よりもひどい災厄をもたらす、という意味です。

この番組からは、自治体が計画した官製の復興計画が人々にいい生活を与えるとみせかけて実は人々から生活を奪い取って行くのだ、ということがはつきりわかります。この番組の鋭い切り口、いままでこんな切り口で復興問題を扱った番組は神戸の震災以来ありませんでした。大変感銘を受けました。

この番組は昨年の5月に放送されたものですが、11月にNHKの「東北Z」という地域番組で「住民合意への道」という番組が放送されました。その中に西村さんの番組で神戸を見学した気仙沼などの地域のことが出てきます。住民の合意がなか

なかで、いろいろな意見がで、いろいろなグループが林立し、とうてい合意はできないだろうというプロセスを踏みながら、それでも急がないで何とか合意への努力が続いています。気仙沼では13回の勉強会を開き、市長もまきこんで住民自治の方向を模索しています。これは西村さんの示唆が非常に大きかったのだと思います。

私たちも半世紀以上民主主義の道を歩いてきたはずですが、住民が自分たちでいんな考えを出しあって決めて行くシステムは作ってこなかったのだとよく分かりました。この番組への経緯と感謝をささげたいと思います。

奨励賞 「衆院選スペシャル・池上彰の総選挙ライブ」（テレビ東京）

河野尚行 この番組は昨年12月の選挙速報番組です。



と考えてみると、選挙の日、開票の日、政治家と有権者の心理的立場が逆転します。ふ

だんは野太い政治家は裁きを前に緊張し、有権者は自分たちの投票権行使した後、それがどんな具合になるのを見てやろう、と見物する気分です。選挙は極めて重要な政治的なことですが、一方で大いにエンターテインメントの要素がある政治的なドラマでもあります。そのことをあらためて感じたのですが、そのことをテレビ東京は素直に、率直に番組にしました。

ますが、正確に、一刻も早く情報を伝えることだけに頭を向けていました。しかし、見世物として非常に面白い要素がある。しかし5時間近い長丁場をどうやって一般大衆の興味をつなぐにはいろんな工夫が要る。まずこの政治ドラマ、祭りの司祭に誰を選ぶか。これが決め手です。ただ面白いだけでなく、次から次とライブで入る情報をたちどころに整理、分類する能力、そして次々と登場する時の人に鋭くインタビューして政治の理解を紡ぎ出す能力もあわせている必要がある。この番組では池上さんがその役割を見事に演じました。番組ではいろんな仕掛けを作って池上さんの情報整理能力、インタビュー能力をフルに発揮させました。テレビ東京のスタッフの努力に敬意を表したいと思います。

この番組は後で、池上さんが石原慎太郎にインタビューして「暴走老人」といじったところだけが話題になりましたが、私が印象に残ったのは4時間半近い番組の最後で池上さんが言った言葉です。カメラの前へ一歩足を踏み出し有権者に向かって言った言葉で、マックス・ウエーバーの「政治家はかくあるべし」という言葉を引用して、「有権者の皆さん、あなたがた皆さんの選択する能力が問われた選挙でもあるのです」と池上さんは言いました。この言葉を番組全体の文脈をみて取って意識すると「有権者の皆さん、あなた方はいいか悪いかは別として、重要な現代史の1ページをめくったのです。あなた方の責任です。そのことを忘れないでください」と言っているのです。たしかにその後日本はある種の政治ドラマが進行中です。私はその後こ

の番組をもう一度見たのですが、放送人の一人として、このストーリーが今後どのように展開するのかきちんと見つけて行きたいと思いました。素晴らしい番組を作ってください、ありがとうございます。

奨励賞 「全日本なまり歌トーナメント」 (テレビ朝日)



松山 珠美
この番組は名曲をそれぞれのお国の方言で歌うものです。番組を口で説明するの

は難しいので歌います。欧陽菲菲の「ラブイズオーバー」を秋田弁で歌うと「loveなばしめなんだ ども しべことするべ」となり、アミンの「待つわ」を鹿児島弁でやると「待つちよいよ とびこせん 待つちよいよ」となります。(拍手)。これが番組になつていきます。基本はのど自慢で、出場者それぞれが自分で歌詞をなまり言葉で考えます。番組の一番キモとなることを出場者にやらせたスタッフは頭がいいなと思います。見ているとお国訛りから伝わってくるものがあります。NHKが60年やってきた「のど自慢」のライバルがここに現れたと思いました。

この番組は今年の元日の深夜の人知れない時間に放送されたので見ていない人が多いと思いますが、第2回が既に放送され第3回が準備中だそうです。皆でお応

援してあげて欲しいと思います。

今は啄木の時代と違って上野駅に行っても故郷の訛りは聞けません。テレビ番組は訛りを大事にしてほしい。バラエティーや情報ワイドは地方を無視し続けています。その逆をとって自分の住んでいるところ、自分の使っている言葉を「あまちゃん」風に言えば「かつけえじゃん」として作ったこの番組に対してありがたうの気持ちでこめて賞を贈りました。

堀川 ちなみにこの番組は他のある賞で「のど自慢ザワールド」という外国人が日本の歌を歌う番組と激しく争って勝ち、受賞することになりました。

企画賞 「花は咲く」キャンペーン (NHK)

河野尚行 私がこの歌を始めてきたのは1年前だったと思います。番組と番組の隙間をこじ開けるように顔なじみのタレントが合唱する。一人一人が手に赤い花を持って、リレーのように少しずつ、祈るように歌って考ないで行く。これがそのうちいろんなところに現れて、伝わって行きました。この歌は復興支援ソングと位置付けられていますが、災害地の痛ましい状況を直截に歌っているのではなく、お互いに思いやつて、支え合つて、という雰囲気がある歌です。

「誰かの歌が聞こえる 誰かをあげましている 誰かの笑顔がみえる 悲しみの向こう側に 花は咲く 花は咲く」で始まり「いつか生まれる君に 花は咲く 花は咲く いつか恋する君のために」で終わる

ます。

この歌は世代を超え、地域を超えて広がりました。放送を通じて、インターネットを通じて、ユーチューブを通じて世の中に広がり、お互いにお互いを励ます形で人の心に響いて行きました。作詞者も作曲者も著作権料を災害地の皆さんにささげました。この「花は咲く」プロジェクトはテレビ、ソーシャルメディアの双方で2012年から2013年のひとつのイベントになったと思います。放送史の中にもきちんと刻み込まれる事業です。大災害から1年たつてスタートし、放送のステブレを利用し、災害地に生きる人々とそれに関心を持ち続ける人々を励まし続けた、この企画を考えた編成マンにあらためて拍手を送りたいと思います。おめでどうございします。

特別賞 「希望の翼」あの時、ぼくらは13歳だった (テレビ神奈川)



鈴木典之

日韓の関係が歴史認識の問題の再燃で政治的に険悪になつていますが、文化を政治の下にさせてはならないというのがわれわれの会の理念であり、日頃考えているところです。この時勢の中で日韓両国民の交流を真正面から取り上げ、しかも日韓共同制作で作ったのがこの番組です。韓国側は代表的な局であるKBSが担当しました。この時期に日韓共同でこんなテレビ番

組が作れる、作る人たちがいることはもっと注目されていると思います。

放送、制作両方で多くの人が大変な苦勞をしました。そのスタッフの皆さんに賞を差し上げるのですが、中でも中核になった方をこの場で紹介したいと思っています。それは自ら日韓交流を実践し、ドラマの原作を書いた寒河江正さんと韓国の羅逸星（ラ・イルソン）さん、（羅さんは今日ご出席の予定でしたが体調をこわされて欠席のようです）、そしてこの企画を苦勞しながら進め、総監督を勤められた大山勝美さんで大山さんは韓国側との折衝で非常な御苦勞があり、撮影現場では鬼と呼ばれながら初志を貫徹されたと思っています。そして全社をあげてこの企画を進めたテレビ神奈川さん、今日は編成局長の関さんが代表としてご出席です。企画を進めるにあたっては右翼への対応もたいへんだったそうです。

大山さんと寒河江さんは当会の会員です。仲間褒めではないか、内輪褒めではないかと声が聞こえてきそうですが、見ていただくとこの作品の重みはどなたにも納得していただけると思います。仲間褒めなどという次元をはるかに超えたものです。

今回ドラマの受賞作がなかったと発言がありました、私はドキュメンタリードラマの可能性を信じている一人で、これが今テレビがやるべきドラマだと思います。

特別賞 渡辺真理 「BS歴史館」（BSプレミアム）

鈴木典之 「BS歴史館」は今最も輝いて

いる教養エンターテインメント番組です。類似番組がいろいろ出ていますが、一頭地を抜くものとして認められています。褒めたいところはいくつもあります。NHKらしい下準備の充実、本格的な歴史番組です。出演メンバーが適切です。長嶋甲兵氏をはじめ、テレコムスタッフ・テレビマンユニオンの二つのプロダクションが競い合っているいい緊張関係を作っていることが番組に反映されている。これらによって面白い番組になっているのですが、なかでもポイントが司会役の渡辺真理さんの美しさです。（嘆声）いや、いわゆるクールビューティーとしては勿論私も認めるところで

すが、そうじゃなくて彼女がこの番組でみせる多才な心からの躍動感、その美しさです。好奇心のオーラを全身で発散しながら鮮やかに仕切る。その熱意に専門の先生方が口をゆるめてしまう。研究者としてあまり表に出さない個人的な見解も出てくる。それをお互いに述べ合う。そこから歴史を動かす人物の人間像が刺激的な形で立ち上がってくる。そこがこの番組のポイントです。新しい発見に視聴者は驚き感嘆しますが、それを引き出すのが渡辺さんの仕切です。それは職業的なアナウンステクニックによるものではなく、渡辺さんの持つ人間力の発露によるものだと思います。

私だけでなく、会員からのノミネートでも渡辺さんを推す声は非常に多かった。会委員は高齢者が多いのですが見巧者が多い。その見巧者が推薦するのですから渡辺さんは大いに自信をもってこの番組をなすべく長くやっていただきたい。

放送人グランプリの賞のグランプリは

一つですが、いくつかの賞は各分野のグランプリです。そんなつもりでこの賞を受けてください。

特別功労賞 玉井和雄 音響効果への長年の貢献



石井彰

玉井さん、

60年間本当に
にお疲れ様
でした。60年
間続けるだ
けでも凄い
ことです、

玉井さんはその上にいつも新しい音に挑み続けてこられました。ぼくら後輩たちはそれだけで「かなわないなあ」との思いでいっぱいです。玉井さんが作ってきた音で伝説になっているものがいくつもありません。実は今日の今日でも日本のどこかで

「これは戦艦大和の艦砲の本当の発射音なのだ」と小さなカセットテープからの音が聞かれています。この戦艦大和の46センチ砲の音は玉井さんが作った効果音です。その音が本物の音として戦艦大和の遺族や海軍兵学校の関係者に聞かれ、海自広報の問い合わせがあり、戦艦大和のファンなどのあいだにひそかに出回っています。

玉井さんは手塚治虫の「火の鳥」もやりました。火の鳥は宇宙を飛びますが宇宙には空気がないので音があるはずがありません。しかし玉井さんは火の鳥がみごとに宇宙を羽ばたく音を私たちの前に創り出してくれました。そしてまた「日蝕」。日蝕に音があるわけがないのですが、玉井さ

んが作った日蝕の音を聞くと「ああ！日蝕だ！」と思います。音は耳で聞くものではなく、心に伝えるものだと玉井さんは生音（なまおと）を作りながら私たちに伝え続けてくれました。

玉井さんがなくなることでも民放ラジオからはこの素晴らしい伝統芸術が消えてしまいます。でも玉井さんが残した番組を聞くことはできます。是非若い人達に音は聞くものではなく創るものなのだ、本物を超える作り物の音があるのだと教えたい。そのことを示してくれた玉井さんのことを私は生涯忘れません。

30年前、私が書いたラジオ台本を玉井さんは突っ返してきました。「雨の音とあるがどんな雨の音なのだ？しとしと降るのか、ばしやばしやか、さあざあか。風が川を越えて行く。どんな川なんだ？どんな風なんだ」そのことが今も私に放送の仕事させ続けています。

放送で音を創る醍醐味、凄さ、それを60年続けてこられた。僕はまだ30年です。後30年やる自信はともありません。

ここにいる作り手の皆さんには自分が作ってきた最高のものを超えるものにトライし続け実現してきた玉井さんのあとを遠くからでも追いかけて欲しい。そんな思いで特別功労賞を差し上げました。

特別功労賞はこれまでで亡くなられた方へあげることがほとんどです。玉井さんがお元気なうちにこの賞をさしあげることができて大変嬉しく思います。放送人グランプリで初めてではないですか。おめでとうございます。（第一回の梅棹忠夫さんは生前ですので二回目です）

受賞者の挨拶



高山 仁

NHK仙台放送局CPの高山仁です。私はひとこと話して、あとはメイソンの戸田に

話して貰います。

2年前、震災直後から仙台放送局に着任し、記者、ディレクターたちの深い思い、怒りを感じています。

番組は官僚用語で「霞が関文学」と呼ばれる予算獲得の論理がいかに一般の市民の感覚と離れたものかを、記者、ディレクターたちの怒りにもとづくフアクトの発掘で明らかにできました。



戸田 有紀

仙台放送の記者の戸田です。このたびはこのようないない賞をいただき本当にありがとうございます。

うございます。

いまCPの高山が申しましたように、この番組は仙台放送局が盛岡放送局、東京の社会部や社会番組部の支援をうけながらできましたが、まずは日々歩いて感じたことをもとに作りました。番組自体は全国で予算がどのように使われているかを追っ

ていますが、その発端は、私たちが、被災地で感じた、「あんなに計上されたはずのお金はどうしてここに来ないのだろうか？」という素朴な疑問です。そこから走り始め、それが5万ページを読み込む原動力になりました。私は取材している中で官僚の方にこう言われました。

「いままでもこんな予算は当たり前にこんな具合にやっていた。ある事業に予算をつけるためにどんな理屈をつけるかが私たちの手腕の見せ所だ。何が悪いんだ。君たちは重箱の隅をつついているだけだ。今までやってきたルールを壊そうというのか」。

そうなのかもしれません。私は仙台へ行く前にも霞が関の取材はしたことがあり、彼らの言い分が全くわからないわけではありません。しかし今回は復興の予算です。財源はそのために皆さん一人一人が負担なさった増税分です。皆さんの多くは被災地のために役立つのならこの増税は義捐金をだすつもりで出そうと納得なさったと思います。そのとき霞が関ルールを持ち込んでいいののか。

私たちは事業のすべてが無駄だとは言っていない。今回アメリカ人の高校生が宮城県三陸町へ来ました。彼らは見学し、語り部の人から話を聞き、感受性の強い高校生ですから感動して涙を流しました。しかし彼らはそのあと京都や神戸を見学し、上げ膳据え膳で凄いいホテルに泊まりました。私たちは同行してすべてをみましたが、この非常時にこの費用をすべて国家予算でまかない、72億円を使うのかと疑問を持ちました。彼らが被災地見学に来て、涙

を流すのはいいでしょう。しかしこれは予算の使われ方として、優先順位はどうなのか大きな疑問です。

被災地では2年過ぎても苦労しておられる方がたくさんあります。数百万のお金がないから自分の次の家がみつからない。数十万のお金がないため自立できない。そこになぜお金が行かないのだろうかと思ひます。その疑問を投げかけた番組です。

先ほど番組を見ると怒りがこみ上げるとおっしゃっていましたが、震災1年半後になると、その怒りの向こう側の、復興が進まないことに、思いが至らなくなってきました。番組をご覧になってもう一度復興が進まないことに思いを寄せてください。

この賞は先輩からのそんな思いのこもったものだと思ひ止めています。素晴らしい賞をいただきました。これからも被災地でがんばって参ります。



西村 美智子

朝日放送の西村美智子です。このたびは大変な誉ある賞をいただきました。ありがとうございます。

さいます。

私の番組は、復興の名のもとに行われた復興事業が、NHKさんの番組と違つて、被災者のために予算を使つても被災者のためにならなかった、というものです。神戸市長田区の新長田駅前の4500人くらいが居住していた地域になんと270

0億円の巨費を投じて40棟の高層ビルを建てる復興事業が行われました。被災者の方にとっては本当に焼野原からの復興で、貧しいところからスタートしたにもかかわらず、超高層ビルに入居するというひとつの選択肢しか与えられませんでした。被災者の方の生活は震災直後より悪くなっているのが現実です。

東日本大震災が起こった後は震災と言えど日本でも、阪神淡路は思い出されなくなるのではないかとその危機感があり、阪神地区の弊社がなにか役にたつことはないかと取り組んだのがこの番組です。この番組放送後も新長田の再開発地区はほとんど悪くなっています。復興災害はこれほどどんどん悪くなり続けるものなのかをいま目の当たりにして今後も私に出来ることはやらなければ、とこの賞をいただいてあらためておもいました。微力ながら記者である限り、あの町の復興を願ひながら復興災害の現実を取材し続けたいと願ひています。

励ましをいただいたことを本当にありがとうございます。



川口 尚宏

テレビ東京で総選挙ライブのプロデューサーをやった川口尚宏です。今回は榮え

ある賞がありとうございます。

今回選挙番組をやるについて池上さん

と最初に取り決めたことは二つあって、一つは家族で楽しめる選挙番組にしよう、もう一つが良い政治家を育てるために、というものです。いろいろな方が番組をみてくれる可能性があるかと信じて始めました。

基本的には突拍子もないことをやったわけではないのですが、中継車の台数やスタッフの数の勝負ではテレビ東京は他局に勝てませんので、なにか意味にあることを打ち出そうと考えていました。昨年の選挙を前に政党が次々に乱立しました。その中で幅広い世代に政治に興味を持つてもらう仕掛けをしようという政治に詳しい政治部のスタッフと政治がわからないスタッフが半々で議論し、池上さんが勝負する舞台を作りました。

池上さんはプロに伝わる政治の伝え方でなくわからない人に伝えようという姿勢です。そのための事前の準備を凄くやりました。政治家の職業をみたら、どういう人がやっているのか、どういう経歴なのか徹底的に調べてぎりぎりクレームのこないキャッチコピーを考えました。そこは勝負するところでした。

今年は前回と様子変わってきています。独自の視点を見つけて幅広い世代にアツピールし、日本の政治をよくする番組を作りたいと思っています。

どうもありがとうございます。

奥田創史 テレビ朝日の奥田です。このたびは放送界の先輩からの栄えある賞を頂戴しスタッフ一同感謝しております。ありがとうございます。

この賞は平日の昼間いきなり代表電話



からかかってきて「放送人の会ですが、あなたの番組が賞を受けました。あと詳しくは書面で」とガチャと電話を切られ、最少は完全に

たづなかドッキリかと思いました。(笑い) そんな賞があるのかとまわりに聞くと、「いやあ、ないんじゃないか」という返事ばかりで、ホームページも調べました。実はさっきこの受付に来るまでドッキリかなあと半信半疑でした(笑い)。本当に素敵な賞を有難うございます。

この番組は先ほど松山さんにも言っていたいただきましたが、地方の素晴らしい番組として胸張ってやろうよ、と始めました。実は偶然にもスタッフには東京出身の人が一人もいません。地方の出身者が地方の言葉で歌詞を書き換えてのど自慢です。最初の放送は元日の深夜にひっそりやりました。当初東京ローカルの予定でしたが、関東以外に全国でも見ていただきたいと思い弊社の番組販売部にローカルセールスをお願いしました。「そんなに売れないと思うけど」と渋っていましたが結果は、テレビ朝日系列の北海道から沖縄までの全社がお買い上げくださいました。しかも同時ネットの放送で、関東ローカル番組が全国ネット番組になっていたので

す。私たちは地方局から「東京のやつらが地方をバカにして上から目線で作った番組

ではないか」と思われるのではないかと懸念し、そう見られないように作ったのですが、放送を始める前のキャプションを見た段階で「これは地方を全国に知らしめる番組だ」と理解していただけました。それは私たちの非常な力になりました。

この番組は2回放送され、残念ながら視聴率はあまりふるわないのですが、素敵な賞を頂きましたので、編成に「もう一度やらせて」と言える武器ができました。本当にありがとうございます。

永野真一 NHKに東日本大震災プロジェクトというプロジェクトがあり、そこで被災地支援などをやっています永野です。

「花は咲く」は復興支援ソングとして震災後1年のタイミングでリリースされ、今累計で16万枚くらいお売り上げを記録しています。



同日に発売されたAKB 48の大ヒット曲「真夏のSounds good」のおよそ10分の

1の売り上げです(笑い)。

この曲の売り上げは義捐金として被災地に贈られる仕組みになっていて、昨年1年でおよそ3千万円が被災地に贈られています。今年もそれほど勢いは落ちず、同額程度が贈れそうです。

経済的な支援というだけでなく、歌ですから精神的な意味は大きく、いまだに被災地から「この歌に励まされています」との

はがきが届き、あるいは「震災後2年になつてようやくこの歌を知った」との投書が届きます。ますます被災地の方の心を癒す歌になっているのです。

作詞の岩井俊二さんによるといまや「東北の君が代」と呼ばれているそうです。

企画賞として賞をいただきましたが、実は企画ではいろんな迷いがありました。震災後半年くらいで企画をたてましたが、その時期には歌を受け入れられる状況かどうか不分明で、誰にどんな歌を歌ってもらうのか、ビッグアーティストにお願いするのか、国民的な歌を狙うのか、義捐金をどうするのか、さまざまな問題がありました。たかだか曲1曲を企画するのに4ヶ月あまりかかりました。おかげで震災1年が目の前に迫り、制作期間僅か1ヶ月であわただしく作りました。リリースされると私たちの手を離れたかのようにどんどん広がって行きました。今日もオリコンチャートを見ると入っています。息の長いヒット曲になると思います。

この曲が何故こんな力を持つことが出来たかと考えると、曲がいいことは勿論ですが、この曲に関わってくださった方々の目指す目的がみんな一致しているからです。ぶれずに一つの方向を向いています。それは非常にシンプルで「自分たちは何かをしたい、被災地のためになるなら何かやりたい」との思いです。沢山の方に関わっていただいて局内外、レコード会社、制作会社などいろいろですが誰ひとりぶれることなく目的に向かって邁進できました。そのことがこの曲に大きな力を与えてくれていると思います。

と最初に取り決めたことは二つあって、一つは家族で楽しめる選挙番組にしよう、もう一つが良い政治家を育てるために、というものです。いろんな方が番組をみてくれる可能性があると思っていて始めました。

基本的には突拍子もないことをやったわけではないのですが、中継車の台数やスタッフの数の勝負ではテレビ東京は他局に勝てませんので、なにか意味にあることを打ち出そうと考えていました。昨年の選挙を前に政党が次々に乱立しました。その中で幅広い世代に政治に興味を持つてもらおうと掛けをやるのと政治に詳しい政治部のスタッフと政治がわからないスタッフが半々で議論し、池上さんが勝負する舞台を作りました。

池上さんはプロに伝わる政治の伝え方でなくわからない人に伝えようという姿勢です。そのための事前の準備を凄くやりました。政治家の職業をみたくて、どういう人がやっているのか、どういう経歴なのか、徹底的に調べてぎりぎりクレームのこないキャッチコピーを考えました。そこは勝負するところでした。

今年は前回と様子変わってきています。が、独自の視点を見つけて幅広い世代にアピールし、日本の政治をよくする番組を作りたいと思っています。

どうもありがとうございます。

奥田創史 テレビ朝日の奥田です。このたびは放送界の先輩からの栄えある賞を頂戴しスタッフ一同感謝しております。ありがとうございます。

この賞は平日の昼間いきなり代表電話

からかかってきて「放送人の会ですが、あ



なたの番組が賞を受けました。あと詳しくは書面で」とガチャと電話を切られ、最少は完全に

たづらかドッキリかと思いました。(笑い) そんな賞があるのかとまわりに聞くと、「いやあ、ないんじゃないか」という返事ばかりで、ホームページも調べました。実はさっきこの受付に来るまでドッキリかなあと半信半疑でした(笑い)。本当に素敵な賞を有難うございます。

この番組は先ほど松山さんにも言っていたんですが、地方の素晴らしさを東京の番組として胸張ってやろうよ、と始めました。実は偶然にもスタッフには東京出身の人が一人もいません。地方の出身者が地方の言葉で歌詞を書き換えてのど自慢です。最初の放送は元日の深夜にひっそりやりました。当初東京ローカルの予定でしたが、関東以外に全国でも見ていただきたいと思い弊社の番組販売部にローカルセールスをお願いしました。「そんなに売れないと思うけど」と渋っていました。結果は、テレビ朝日系列の北海道から沖縄までの全社がお買い上げくださいました。しかも同時ネットの放送で、関東ローカル番組が全国ネット番組になっていたのです。

私たちは地方局から「東京のやつらが地方をバカにして上から目線で作った番組

ではないか」と思われるのではないかと懸念し、そう見られないように作ったのですが、放送を始める前のキャブションを見た段階で「これは地方を全国に知らしめる番組だ」と理解していただけました。それは私たちの非常な力になりました。

この番組は2回放送され、残念ながら視聴率はあまりふるわないのですが、素敵な賞を頂きましたので、編成に「もう一度やらせて」と言える武器ができました。本当にありがとうございます。

永野真一 NHKに東日本大震災プロジェクトというプロジェクトがあり、そこで被災地支援などをやっています永野です。

「花は咲く」は復興支援ソングとして震災後1年のタイミングでリリースされ、今累計で16万枚くらいお売り上げを記録しています。



同日に発売されたAKB 48の大ヒット曲「真夏の夜の夢」のおよそ10分の

1の売り上げです(笑い)。

この曲の売り上げは義捐金として被災地に贈られる仕組みになっていて、昨年1年でおよそ3千万円が被災地に贈られています。今年もそれほど勢いは落ちず、同額程度が贈れそうです。

経済的な支援というだけでなく、歌ですから精神的な意味は大きく、いまだに被災地から「この歌に励まされています」との

はがきが届き、あるいは「震災後2年になつてようやくこの歌を知った」との投書が届きます。ますます被災地の方の心を癒す歌になっているのです。

作詞の岩井俊二さんによるといまや「東北の君が代」と呼ばれているそうです。

企画賞として賞をいただきましたが、実は企画ではいろんな迷いがありました。震災後半年くらいで企画をたてましたが、その時期には歌を受け入れられる状況かどうか不分明で、誰にどんな歌を歌ってもらうのか、ビッグアーティストにお願いするの、国民的な歌を狙うのか、義捐金をどうするの、さまざまな問題がありました。たかだか曲1曲を企画するのに4ヶ月あまりかかりました。おかげで震災1年が目の前に迫り、制作期間僅か1ヶ月であわただしく作りました。リリースされると私たちの手を離れたかのようにどんどん広がって行きました。今日もオリコンチャートを見ると入っています。息の長いヒット曲になるとと思います。

この曲が何故こんな力を持つことが出来たかと考えますと、曲がいいことは勿論ですが、この曲に関わってくださった方々の目指す目的がみんな一致しているからです。ぶれずに一つの方向を向いています。それは非常にシンプルで「自分たちは何かをしたい、被災地のためになるなら何かやりたい」との思いです。沢山の方に関わっていたら局内外、レコード会社、制作会社などいろいろですが誰ひとりぶれることなく目的に向かって邁進できました。そのことがこの曲に大きな力を与えてくれていると思います。

どうもありがとうございました。

寒河江正



今日は特別賞をいただき本当にありがとうございます。本来は大山さんがここに話すべきですが、のちほど話はあると思います。

私は「あのときばかりは13歳だった」の原作者ですがもう一人の原作者羅逸星君はいま病気で韓国の自宅で療養中です。さつき電話を入れましたら感激して「皆さんによろしく」と言っていました。8月に韓国で放送されることを望む、関係の皆さんにお一層のお力を貰いたいとも言っていました。

この番組が大山さんの大型企画で私どものtvkに持ち込まれたとき、私は3つのハードルを感じました。私は原作者ですから言葉は交わさないでただ祈るばかりでした。ハードルの一つ目は制作費などの面でtvkで受け入れられるかどうかです。二つ目は日韓交流ですが、韓国KBSとの共同制作はどうか。tvk開局40周年企画として乗り越えられるかどうか。去年の3月から今年の4月までを40周年の期間と定めています。それに間に合うかどうか。これは私どもの勝手な危惧でベテランの大山さんなら大丈夫だろうと信じていました。しかしどんなことが起こるか分からないのです。

このドラマの誕生については大山さん

が月間民放の5月号に詳細に書いておられます。このなかでtvkで大丈夫かなと多少の危惧があったことを書いておられます。経営者には経営理念と文化マインドがあります。この二つがどうなるか。私の出版記念会で大山さんは御挨拶でこれをドラマにしたいとおっしゃいました。その会場では何人かの人が私に「ドラマ化実現おめでとう」と言いました。大山さんの会場での一言が言葉のように鳴り響いて、多くの方がtvkの40周年にふさわしいと言ってくれました。そのとき共鳴してくれたのが先ほどトロフィーをいただいた中島健蔵です。かれが大山さんに「是非実現しましょう」と言い、社内を説得しました。その説得をここに来ていて関係編成局長が後押しし、結局文化マインドが経済マインドに勝ちました。

放送が始まって大変な反響があったと関係編成局長から聞きました。私自身も200通を超える反響をいただいています。

大山さんは仕事がないときは急に衰弱したかのように力を落としてみえます。私と中島は現場で「点滴!」と騒いだりしましたが、現場に復帰すると非常に大きな声を出し、ルース教会での合唱の撮影のときは「ブラボー!」ととても大きく大きな声で韓国の人を驚かせていました。こういう風に番組は作るのがかと教わりました。

いま日韓関係はきびしい状況ですが、韓国KBSでもう1回放送される予定です。それが最後の放送になりますが、みなさんのお力をいただいて韓国での放送を是非実現したいと思っています。

今日は本当にありがとうございました。



渡辺真理

ありがとうございます。アナウンサーの渡辺真理です。先ほどの推薦コメントには

本当にびっくりしました。「美しい」という言葉を音声化した言葉で頂戴したのは仕事でも家庭でもいままでありません。(笑い) とってもありがとうございました。どきどきしました。

何より嬉しかったのは番組を長く続けて欲しい、と尊敬する先輩方から言っていただけことです。私がこの番組に参加したのは2年前の7月で、1回ごとのオフアという形でしたが、その時は9月いっぱいまで終わるとほぼ決まっていました。そのことは後から知ったことで、入った最初は「なんて面白い番組なんだろう」と思い、1回1回やっている、このテーマ設定、切り口、リサーチ能力の凄さはテレコムスタッフとテレビマンユニオンの力だとわかりました。

なにより、いらっしやる3人が4人の先生方は、「なんでこんなに話すのだろう」と思うほど話が止まらない。この人たちは歴史上のこの人物、あるいは事件に生涯をささげて本当に好きなんだ、とびっくりしながら聞いていました。

口をさしはさむ余地は全くありません。テープチェンジの間もずっと話が続いています。それを最初に聞ける楽しさです。

それぞれの分野の第一人者ですから尊敬を集めておられるのですが、話を伺っているとなんとも可愛い。そんなことを感じられる場所にいることの幸せを感じています。今回個人名で賞を頂戴したのは身に余る光栄です。受賞コメントで監督、スタッフ、その他いろんな名前を皆さんよくおっしゃいますが、私の場合は本当に「BS歴史館」という番組がいただいた賞で、そこに携わることが出来た、出会うことが出来た自分はなんて幸せなんだろうと思います。

私が電波に出た最初はNHKのBSが立ち上がるまででした。NC9という木村太郎さんと宮崎緑さんがやってらっしゃった番組が変わってニュースウェイが始まる、大学にオーディションの貼り紙が出て、先輩について行ったのが始まりです。その時のデスクが池上彰さんでした。私が二十歳のときに池上さんは845というストリートニュースを読んでおられて、子どもニュースのずっと前です。そこでいろいろ教えていただきました。その後運よくTBSに入社出来、TBSに8年いましたが、やめてニュースステーションに出るといふとき、TBSのアナウンサーの先輩が空いているニューススタジオでニュースを読む練習をしてくださいました。それから師匠の久米宏から苛烈な特訓を受けましたが、久米さんは「僕は君のTBSの8年間をずっと見てきたが、本当に君は恵まれている。そのことを自覚しない」と言われました。うまくないアナウンサーなので呼吸法、発声法にもくじけてやめそうになったこともあります。恵まれて

いることに応えられるよう努力をしなくてはと思います。恵まれているというのは池上さん、TBSの先輩、久米さんなどたくさんの方に迷惑をかけてきたことです。そんな方々からいただいたもので、番組を見てくださる方に「面白い」と言っていただけのような番組を変えることができればと思います。

「BS歴史館」の仕事は今日お休みなのですが、スタッフの方がここに駆け付けてきてくださいました。ありがとうございます。番組を続けて行ければほんとうにいいので、先輩方のお力をください。

歴史がお好きな方で「こんな人物、こんな事件に興味がある」と言っていたら、ぜひ出演していただきたいので、いつでもおっしゃってください。

この会は放送界のレジェンドが見られる機会だからと主人を連れてきました。フジテレビの高山です。放送人でよろしくお願いします。



玉井和雄

先ほど石井さんが日蝕の音のことをおっしゃっていましたが、確かに作りました。

根がひねくれています、音にならないものを音にしようというのが私の基本理念です。日蝕の音となると、ないはずの音ですから、あえて作る。そのきっかけは聴取者とのやりとりです。「あの音はどうだ」

「こんな音は作れるか」と切りこんでくれる。効果音の特集をやる。「玉井和雄へ挑戦」とそんな投書がきます。日蝕がプーのときもそんな投書がどんと届きました。1週間ぐらい必死に考えて、作り出した。「だから、どういう音なのだ？」と聞かれると説明に困りますが、自分で作ってみて「成程な。これいいのかな」と思います。(笑い) 聴取者とのやりとりの中からは「夫婦の絆が切れる音」(笑い)というのもあり、負けちゃいけないところからは必死です。そんなものの発展から戦艦大和の音も生まれました。ある日、防衛庁から文化放送の社長へ「こちらに不思議な音があるので調査に来てくれ」と電話がありました。行ってみると私が作った大和の音だとすぐ分かりました。その頃の録音はカセットで、ぐるぐる日本中を駆け巡って元海兵の人のあいだなどで音が独り歩きしていたのです。それで特集を組んで放送しました。たんなる「どかーん！」ではなくて凄惨な音になっています。防衛庁のかたはそれに感動なさったようです。

ひねくれています、人に聞こえない音を作るなんて、考えようによっては人を馬鹿にしている。「日食の音？それは何だ」と。そんなことで賞を貰うのは申し訳ない(笑い)と思いますが、それはそれで勘弁頂いて、今回は誠にありがとうございます。

【懇親会】

司会・鈴木典之 このパーティーは他の授賞式とちよつと趣を異にしています。会員の相互交流そして受賞者と会員、受賞者同士の歓談の場として設定されています。です

から恒例にしたがい最初から無礼講です。減多に指名しませんでしたので喋りたいかたはここへきて思いの丈を喋ってください。ただ今年は放送人の会が法人になって最初のパーティーですので頭だけ、今野新会長から挨拶をしてもらいます。

今野 新会長と言われましたが、別に新しくなったわけではなく、会長という名前がついただけです。前は代表幹事という名前だったのですが、定款ができて会長という名前になり、その最初の会です。相も変わりますがよろしくお願いします。

この会は少し熱い会です。今日もまだお話になっていないスタッフの皆さんのお話も聞くことになると思いますが、さっきのような熱い言葉でお話頂ければと思います。

【乾杯】

大山勝美 突然ですね。今回は中島さんと関局長に喋っていただいて僕はいいやと思っ



っていました。本当に素晴らしい賞で、内容もバランスがいいし、こんな番組があったのかと感心しながら皆さんのお話を聞いていました。選考委員の方々の言葉も素晴らしい。冒頭の会長挨拶の「受賞者とわれわれの言葉が響きあう」という言葉がびつたりです。一般社団法人になってますます隆盛になると思います。私も受賞して少しむ

ずむずするのですが、素直に喜んでいきます。点滴を途中から打って急に元気になりました。(笑い)「鬼」と言われたことですが、あの中で中学生の教練があります。体験者は僕しかいません。だから「匍匐前進はこうやるんだ」とか「銃剣で突くときはこうやれ」「そうじゃない。違う！違う！」と怒鳴りまくり、それ以来「鬼」と言われました。(笑い) 余計なことを言いました。皆さんのご健勝と受賞者の方へのお祝いを再度申し上げ、この会の発展を祈って乾杯します。ご唱和ください。乾杯！

関編成局長 こんな立派な賞をありがとうございます。テレビ神奈川は小さな局で100名く



らいの規模でやっています。まさかこんな栄えある賞をいただけるなんて夢にも思

っていませんでした。

なんせオーバー80の方3人(笑い)との付き合いで大変な1年間でした。この番組の時代のことにはわかつていっているようすが、話してみると年齢によってかなりのギャップがある。若い層では中学高校の教育で1930年代の日本歴史はすつ飛ばされている。習っていないのです。視聴者からの反響でもわかりましたが、知らなかった日本と韓国の関係がKBSの映像もあってコンパクトによくわかったと言われました。

これからDVD化しますが、折角作ったものですかなんとか後世に残るものにしておきたいと思います。

鈴木嘉一 昨年春新聞社を離れこの会に入りましたが、忙しくて会のいろんな事業にあまり参加できませんでした。いままで日韓中のフォーラムには欠かさず行っていたのですが、それも昨年は行けませんでした。今日の受賞作の中で見ていたのは「希望の翼」くらいです。グランプリの「復興予算」は見損なって、評判が非常に高いので見ましたが、むしろこの会へ出て、放送のプロの目で見えた話を聞き、見逃した番組を追いかけたと思います。選考委員の言葉、受賞者の言葉から熱いものを感じました。この賞はやはり他の賞と違います。

曾根英二 受賞の皆さんおめでとうございます。今日は大阪から来ましたが元は岡山にいて第2回にこの賞をいただきました。この賞は本当にホットになる賞です。皆さんももっとホットになっていい番組を作ってください。私は今大阪の大学で教えていますが、できればそこへ来て学生に話をしてやってください。

今日はおめでとうございました。

奥田創史 とそのスタッフ 今回は素敵な賞がありとうございます。素敵な先輩の前で話ができることを光栄に思います。これからも皆さん方にお褒め頂けるような番組を作りたいと思います。ありがとうございました。

渡辺真理 放送の先輩にこんなに褒めていただいて天に上るくらい嬉しいですよ。この番組に私に声をかけてくださったプロデューサーが来てくださっています。彼女がNHKに入ったときに私がTBSに入り、それから20年たつて知り合い、仕事が出来たという間柄です。彼女がいなければ私は「歴史館」に関わらせてもらえませんでした。

上田真理子 私は元プロデューサーでこの場の挨拶は荷が重いのですが、この番組はいつ打ち切られるかとひりひりしながら作ってきた番組です。試行錯誤あり、うまくいかなかったことありますが、真理さんが入って、こうやって歴史の面白さを識者の方たちから引き出せばいいんだと気付かせてもらいました。その意味では真理さんなくして成立しない番組です。この賞をいただいたことはスタッフ一同誉れに思っています。ありがとうございました。

小林竜夫 仙台放送局で報道のディレクターをやっている小林です。作って放送が出るまではこれがこんなに反響を呼ぶとは思っていませんでした。放送を出しながらこれはもしかすると大事になるかもしれないなと感じてはいました。前にやった「ワーキングプア」のときと似ています。今回はふつうの映像を使っているのになんかに騒がれるとは思っていませんでした。私たちは取材した対象がいわれなき誹謗中傷を受けたことは非常に気にしますが、今回の反響は復興予算の流用の事実「ひどい」「ふつふつと怒りがわいてく

る」というもので、勇気づけられました。嬉しかったのはその後いろんなところで使われ、いろんなメディアのフォーローがあったことです。3日前も宮崎の基金のことでフォーローがありました。私たちには目の届かなかったことが多々あつてはずかしいと思つてはいるのですが、いろんな方に後押しされています。この賞もそうで、放送人の方々に「一人じゃないよ」と背中を押されている気持ちを感じます。その意味で自分だけで貰った賞ではないと凄く感じ、凄く嬉しいです。

神戸の復興予算16・3兆円を検証された方の言葉ですが、「神戸にはいろんなボランティアの人が来て予算もついた。しかし内実を知っている人、93年にボランティアに来た人に見に来てがっかりして帰つて行く。あれだけお金が投入されて復興はどうなったのか。君たちどんなに返り血を浴びてもきちんと伝えないと後悔するよ」と言われました。復興予算20兆円は一昔前の韓国の国家予算1年分です。それだけ投入されながらボランティアの人が3年ごと5年ごとに見に来て「まだこれなのか」と言います。そうはさせたくないと思います。

この賞で私は放送人の方々の気概を本当に有難いと思います。

中島徹 私どもの会社ができた昭和47年、私と寒河江さんが同時に入社したのですが、それから40年、寒河江さんからあの話を繰り返し、繰り返し聞かれました。一昨年、あの本の出版記念会るとき私は受付をやっていたので今野さんと大山

さんご挨拶を聞いていないのですが、会が終わったところで声をかけて「これ、いいドキュメンタリーになるとは思いませんか?」と言うと、大山さんが「そうだ!」との返事です。それから昨年11月、12月、今年の1月、2月と議論を重ねました。tvkの中で戦前生まれはほとんどいないので私は会長を口説きました。小なりといえど40年の歴史がある放送局なのだから、やったらどうか、新しい商品を開発するのは経営者の責任だ、と。昨年4月tvkの幹部会に大山さんをお招きして説明していただき、やらざるを得ない雰囲気になりました。あとは大山さんが月間民放に書いておられるとおりです。

この番組を通じて日本の戦後処理の不十分さを感じ、そのことに放送人の皆さんが真摯に取り組んでおられることを感じました。

tvkの未来は次の世代が「未来の翼」を越えてやって行つて欲しいと思います。ありがとうございました。

【中締め】

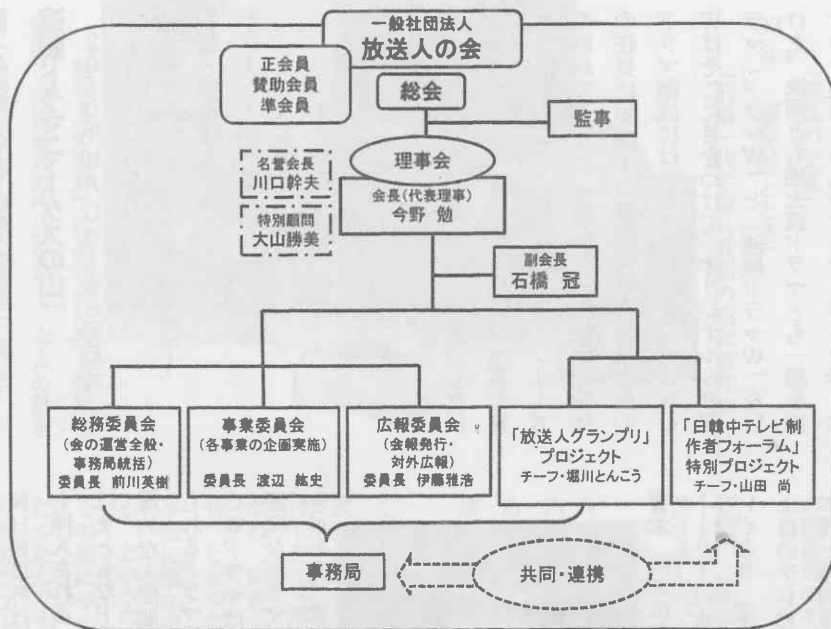
松尾羊一 受賞者の皆さんおめでとうございます。先日慶応大学麻酔科の近藤誠さんの本を読むと80を過ぎてガンを切る奴はバカだと書いてありましたので私は切らないことにしました。年齢はともな番組を作る人は作っているのですから、健康に留意して皆さん頑張ってください。では一本締めで終わりにしたいと思います。

「よーっ!」 パン!
今日はありがとうございました。

一般社団法人「放送人の会」

第1回総会

5月11日(土)、東京港区のNHK青山荘で、「放送人の会」総会が開かれた。今回の総会は、4月1日に一般社団法人としての登記申請が受理されたことにより、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」の定めによって第1回定時社員総会として開かれたものである。



総会では、今野会長の法人としての活動方針(巻頭言参照)についての発言に続いて、理事会で決定された人事関連案件について、以下の通り報告がありました。

1. (任意団体におけるのと同じく)川口幹夫名誉会長、大山勝美特別顧問が選任された。
2. 新設の副会長職に石橋冠、事業委員長渡辺紘史、広報委員長伊藤雅浩、総務委員長前川英樹、放送人グランプリ・プロジェクト・チーフ堀川とんこう、日韓中テレビ制作者フォーラム特別プロジェクト

ト・チーフ山田尚、事務局長北村充史が夫々選任された。3. また各委員会、プロジェクトの担当も基本的に任意団体の構成を引き継ぐことになった(別表①)。

続いて、任意団体の決算と任意団体から新法人への財産寄付について報告があり承認された(別表②)後に、新法人の予算案も承認された(別表③)。会費については定款で毎年度総会において決定するとされているが、運営規約(4/1付理事会承認の「会費に関する内規」により任意団体の定めを適用することが提案され承認された。

これらの決議や承認事項を受けて、「名

作の舞台裏、「放送人の世界」などについての運営方針や効率化について会長から説明がありました。

最後に、会の活動基盤安定のため「新会員獲得活動」の方針についての考え方と同活動の担当理事として石橋副会長が当たることの報告があり、石橋副会長の所信表明があった。また、総務委員会からは新会員に関する対応事務などについて説明があった。

以上をもって、総会は全ての議案の審議事項の決議と報告案件を了承して終了した。

なお、当会定款はホームページに掲載予定。

2012(平成24)年度会計報告 2012・4・1~2013・3・31			
前年度繰越金		3,551,142	
日韓中口座貸付(福岡大会)残高戻入		1,000,000	
2012年度収入		4,766,151	
会費(含む入会金)	2,172,000		
共催事業契約・各種助成金	2,400,000		
イベント関連収入	148,000		
寄付・利息その他	46,151		
2012年度支出		5,824,674	
一般管理費	3,245,607		
事業費	2,579,067		
2012年度収支残高		3,492,619	
次年度繰越金		3,492,619	
2013(平成25)年度予算			
<収入>		<支出>	
前年度繰越金	3,492,619	一般管理費	3,470,000
会費収入	2,000,000	人件費	1,100,000
番組以外共同事業	2,000,000	事務所費	400,000
イベント関連収入	150,000	通信交通費	400,000
		会議費	150,000
		コピー代	50,000
		会報制作費	350,000
		HP管理費	150,000
		事務用品・備品費	150,000
		法人化・会計関係費	650,000
		事業費	3,000,000
		予備費	100,000
		次年度繰越金	1,072,619

第35回・名作の舞台裏

連続ドラマ「マークスの山」

2010年10月17日(土)全5回放送

制作 WOWOW

日時・4月20日(土)午後1時半(

会場・横浜情文ホール

ゲスト・上川隆也(主演)

水谷俊之(監督)

青木泰憲(制作)

司会・渡辺紘史(放送人の会)

今回は組織と個人をめぐる屈折した状況をえぐる「マークスの山」(直木賞受賞作)をむかえた。「合田雄一郎」シリーズの原点であるが、重層的な人間関係を時代の狂気に架橋する独特な世界は地上波のドラマ編成にはなじまない作品。WOWOWはそこに目をつけて、オリジナルSPドラマ「ドラマW」と「連続ドラマW」を設けた。映画とも地上波ドラマとも一線を画す中CMめきのWタイプ・ドラマ枠はテレビ界に大きな反響を呼ぶ。そうしたWOWOWドラマ編成のコンセプトを含めた催したが、今回は上川ファンが目立つ「舞台裏」となった。



渡辺紘史氏

司会 テレビドラマといっても地上波はNHK以外は3連4連のCM枠がいくつも挿入される。そんな劣悪な視聴環境下ではまともなドラマ、高村薫原作のような重層的な人間関係や複雑な心理描写が求められるドラマは敬遠されてしまう。WOWOWドラマはかつてのアートシアター映画風なドラマ工房が作っている、そんな趣きがある。青木さんどうですか



青木泰憲氏

青木 映画はたしかに鑑賞性は高いが、ストーリーは主演級の役者中心で運ぶ感じが、家で見られる気安さもない。地上波のテレビドラマは中CM挿入もだが本筋と無関係に主演クラスをどう撮るか、視聴率による裏番組への対抗企画が目立ち、なにより連続性に耐えるコンテンツとしての力が不足しているようにみえます。WOWOWの契約者層は知的エンターテインメントを求める特色があり、洋画への造詣、推理小説などの読者も多く、社会的関心も強い。つまり大人のファンを集約した作り方、原作を映像的にオリジナル化できるドラマの余地があるはずだ。そこにWOWOWドラマの着地点を考えたのです。



水谷俊之氏

水谷 『マークス』のような複雑に組織と個人がからみ、主人公の孤独感が事件の裏側にひそむドラマでは2日のような単発では無理。120×3、つまり5回ないし6回連続にしないと。原作を読んで犯人が分かっている人も読んでいない人にも共通してドラマに没入できる条件を課することで原作の魅力を映像の魅力にしてみよう。そこにWOWOWドラマがあるんじゃないですか。比較的地味で取柄はひたむきさ、真摯な態度が画面一杯に出る上川隆也にファンがひきつけられるのもそこなんです。黒っぽいスーツで白いスニーカーを履いている刑事がスニーカーを洗いな

がら事件を考えている。ありえないシーンなんだけど彼が演じるとサマになっっている。



上川隆也氏

上川 スニーカーを洗うシーンですか。なにも考えていません。(笑い)。ただいわば

スタンド・アローンみたいな狼犬みたいな刑事像って、形而上的な演技っていうのかなあ、合田雄一郎「つてありふれたヒーロー像じゃないから内面演技をしたつもりだけど、外面には現れない。

司会 会場からの質問を受けます。

と見回すと上川ファンらしき女性が3、4人。

・上川さんは演じるとき、憑依型(役に没入)で演じますか、役を分析するタイプですか?

・例えば松本清張の「砂の器」のようなハセン病などテレビのタブーにWOWOWではどう対処しますか?

などの真剣な質問がでたのが印象的だった。

会場をみわたすと中年男女、それも知的な感じがする層が集まっている気配がしてあらためてWOWOW戦略と計算がおよぼすテレビドラマへの影響を期待したくなった。(M)

連続ドラマ「いまはわかしく」①

ビンテージ老人の映画館

松尾羊一

30年前の新宿は南口の昭和館。

「かたぎのおめえさんを連れて行くわけにはいかねえ」と花田秀次郎(高倉健)に料亭の花板風間重吉(池部良)が「あれから15年秀さん、見過ごしてくんないぜえ。ご恩返しの花道でさあ」。二人の後

第15回 放送人の世界

「石橋冠・人と作品」

日時・3月29日(金) 30日(土)

午前11時〜17時

会場・NHK放送博物館(愛宕山)

ゲスト・石橋 冠

聞き手・今野 勉(放送人の会・会長)

《上映作品》

29日 「昨日、悲別で」「新宿鮫」

「玩具の王様」

30日 「菊次郎とこき」

「刑事一代平塚八兵衛の昭和事件史」



「放送人の世界」は放送史に残る番組を制作した放送人の作品をみて、本人の話を聞く公開セミナーで、今回は石橋冠さん。

石橋さんは札幌市生まれ、日テレで「冬物語」「池中玄太」などを演出。フリーとなつてから「点と線」「なぜ君は絶望と闘えたのか」などを演出。多くの賞を受賞し、今期から放送人の会副会長である。

今回、石橋さんの作品を2日間かけて、5本たっぷり見たはずだが、見たい作品はこの何倍もある。この紙面で作品の紹介はどうていできないので、石橋、今野お二人のトークを2日目の分から断片的に探検してみた。プロ同士だからわかるプロの技の秘密がのぞけたらと思う。

石橋 「池中玄太」は演出しながら笑ひ、泣きました。「菊次郎とこき」もそうです。宇野重吉さんみたいな頭の上がらない

いい先輩がいるといいですね。タケシも陣内孝則も室井滋にかなわなかった。畏怖する人がいると嬉しいんですね。生き甲斐を感じる。

かつて久世(光彦)が死んだときは悲しくつてね。背中を追いかけていました。

彼は池中玄太が始まる時突然電話をかけてきて「池中玄太80キロ、いいタイトルだね。何だかわからないけどこれあたるぜ」と言った。「2丁目3番地」の時は試写室に誰か訳のかからない人が座っている、というので行ってみると久世です。よその局にやってきて試写をみるのが平気だったんですね。TBSのドラマ部では、久世はこのDのドラマが面白いと思うと

スタジオにもロケにも行った。

和田勉(NHK)は見たら葉書をくれるんです。他局のDとのつながりを大事にしていました。

浅丘ルリ子の仕事のととき和田勉が来て、盛んに棒を振り回す「アップ!もつとアップ!」とひとの番組を演出するんですね。

今野 「菊次郎とこき」は「昨日、悲別で」と共通点がある。母と息子の物語りです。「悲別」の母は炭鉱で働き、夜はバーで働く。

「平塚八兵衛」も母と子の物語りですが、茄子漬けのエピソードは原作にはないでしょう。

石橋 ありません。ドラマにはどこかでウソをつく隙間がないと面白くない。小原の母と子の物語りのなかにちよつとセンチメンタルを注射しました。やはりホームドラマをドラマの中に入れたい。母と子のドラマにしたい。

今野 奥さんをやった原田美枝子がいい。
石橋 最後の猫を抱くシーンに喜んでくれました。

今野 出演する以上どこかに見せ場がなくちゃね。

石橋 あの猫、あの時代にはまだ輸入されていない外国種なんですって。

今野 取調室はミステリードラマによく出てくるが、あの撮影はむずかしい。

石橋 渡辺謙さんはスタジオに入るまでわざと小原役の萩原聖人と会わないんで

る姿に「へ義理と人情を秤にかけりや義理が重たい男の世界」と主題歌が流れると突然「きた!きた!」「4-1だつ」と館内ざわめく。甲州街道を挟んで場外馬券場があり、昭和館は競馬ファンのたまりでもあった。ラジオ短波の実況をイヤホンで聞いているのだ。もろ肌抜刀姿の唐獅子牡丹も糞もあるか。場内は映画どころではない雰囲気。「健さん、あいつらを叩き切ってくれ!」とわたり。

昭和館はまるで「ニュー・シネマ・パラダイス」を思わせる趣があったが日本だつて下巻線映画館、例えば淡路町のシネマパレス、神保町の東洋シネマ、銀座の並木座、大森は山王映画、下北沢のオデオン座に三軒茶屋の中央劇場などが次々に滅んだ。今はピンク系上映で喘ぐ昭和館だつてあぶない。

小便臭いがビンテージの匂いもする時代遅れの三流映画館は健さんじゃないが「死んで貰います」らしい。トホホ…

す。完全に八兵衛になり切っていた。萩原はスタジオにあの足を引きずる歩き方で、ばたんばたんと音をたててゆっくり入ってくる。彼のみた目の弱さが生きました。

—以下省略。

ちょうどサクラの季節で愛宕山は満開のサクラが散り始めていた。お花見のためか公開セミナーの客の入りはイマイチだった。もったいない。

ひろがるインターネットラジオ

武本宏一

ラジオのデジタル化、いまどうなっているのか。今年3月、民放連は「全ラジオ局がいっせいにデジタル放送に切り替えることは断念する」と発表した。つまり、これから先は各局さん独自の判断におまかせします、ということ。折角この10年来、デジタルラジオ推進協会（DRP）まで作って、実験放送などに取り組んできたのにそれも終了。デジタル化すれば、音声のみならずラジオ局には待望の映像情報まで流せる利点があるが、それには巨額の設備投資が必要で、このラジオ不況下では大きな負担になるとのこと。また肝腎のデジタルラジオ受信機が一向に普及しなかったことも背景にはある。

代わってこのところ存在感を増しているのがインターネットラジオだ。既に民放各局のサイド「radio」、それにNHKの「らじるらじる」が地上波とのサイマルで放送中。

更に最近では、いま爆発的に普及したスマートフォンでもラジオが聞けるようになった。むかし、携帯ラジオでニュースや野球中継を聴いていたこの私も、いまスマートフォンが手放せない。

さて、AMやFMのサイマル（同時放送）とは別に、インターネットで流すことを初めから目的とするラジオ局もいくつかある。たとえば、TBSが運営するクラシック音楽専門ラジオ局、OTTAVA（オッターヴァ）だ。室内のパソコンからアクセ

スすると厳かなクラシックが流れ出して、結構なバックグラウンドミュージック空間が現出する。

もちろん、スマートフォンにヘッドホンをつけば、昔のウオークマンやiPod以上の音質で、モーツァルトと散歩が出来るしまう。

私の若い友人、本田聖嗣（せいじ）さんは、このOTTAVAで、開局以来6年もの間、月々金の毎日朝7時から9時半まで、ずっとブレゼンター（DJ）をつとめてきた。（このほど契約満了で、やっと朝寝坊も楽しめるようになった）

東京芸大、パリコンセルバトワール出身の優秀なピアニストの彼、毎朝機器の操作から、選曲、おしゃべりまで全て一人でこなす、完全ワンマンDJ番組を1日も休まず担当してきた。

その本田さん、「ともかく、辞める段になって驚いたので、ぼくの番組は世界で聴かれているのです。アメリカ、フランス、タイ、中国、そして南極も。励ましのメールを沢山もらいました。音楽に国境はない、と言います。放送においても、インターネットラジオに国境のないことを実感させられましたね。」

地球全体を視野に入れた、新しいインターネットラジオの可能性、まだ広がりそうな予感がする。

音楽史上最大のイベント

ALL TOGETHER NOW

田中秋夫

ラジオ広告費の減少によって民放ラジオが経営的に苦戦を強いられいているとい

う。日本民間放送連盟のラジオ委員会は4月8日、ラジオの持つ価値を改めて広く一般社会に訴求する取り組みとして、「ラジオ再価値化プロジェクト」を開始すると発表し、民放ラジオ100局による特別番組を放送するという。それが28年前の1985年6月15日に国際連合が提唱した

「国際青年年」を記念して国際青年年推進協議会と民放ラジオ64社が主催し、国立競技場で行われた大規模なコンサート「ALL TOGETHER NOW BY LION」のライブ秘蔵音源を利用した番組なのだそうである。

このイベントは国際青年年のスローガンである「参加」「開発」「平和」を社会に広く知らしめることに共に、民放ラジオが結集し、そのパワーを誇示する目的で実施され、観客動員数63000人という大規模なもので、当時のミュージックシーンに大きな衝撃を与えた。

このイベントを実施するにあたり、前年から民放連に特別プロジェクトチームが組織され、在京ラジオ3局からスタッフが送りこまれたが、私も「制作・演出部会」の一員として活動することになった。このイベントの最大の難関は日頃個別の音楽活動が続けてきたビッグアーティストたちが一堂に集まることに同意するか否かという問題であった。彼らの多くは団塊世代に属し、「群れること」に本能的に強いアレルギーを示す傾向があった。私は各局のスタッフたちと各アーティストの事務所を訪ね、出演の了解をとりつけるべく折衝を重ねた。

アーティストたちはラジオに対しては親近感を示してくれていた。彼ら全員が196

0年代後半から始まった日本のポップスシーンにラジオが大きく貢献してきた事実を認識してくれていた。その結果、当初難色を示していたアーティストも次第に協力の意志を表明し始め、4月の記者会見の直前に出演者の顔触れを揃えることが出来た。

当日は広大なグラウンドに前後からの突貫工事で前代未聞の8面の円形ステージが組まれた。なにしろ史上最大のイベントであり、スタッフの数、使用機材（マイク300本、アンプ200台、総費用などあらゆるものが記録づくしであった。午後4時開演。出演順に参加したアーティストを紹介すると、吉田拓郎（兼総合司会）、オフコース、アルフィー、鈴木雅之、アン・ルイス、山下久美子、白井貴子、財津和夫、ブレッド&バター、チエッカード、武田鉄矢、南こうせつ、イルカ、さだまさし、松任谷由実、はつぴいえんど（この日の為に15年ぶりの再結成、坂本龍一、加藤和彦、佐野元春、サザンオールスターズという23組のアーティストたちで、現在でも第一線で活躍している豪華な顔ぶれだった。これらの出演者たちがそれぞれセッションを組むという画期的なコンサートが展開され、6万人を超える観客たちを熱狂させた。そして最後はこのコンサートの為に作られた小田和正作詞、吉田拓郎作曲、坂本龍一編曲のテーマ曲「ALL TOGETHER NOW」を出演者全員が大合唱するという感動的なシーンでフィナーレを迎えた。このイベントは日本の音楽史上に於いて空前絶後のもので、それに関われたことは今でも幸せだったと思っている。

第38回放送人句会

◇平成25年5月8日(水) ◇於：赤坂・麦屋

◇選者：星野高士

◇出席：伊藤規郎、上村曉蛙、荻野慶人、尾崎麻衣子、鶴橋康夫、豊田まつり、新村もとを、橋本きよし、林備後、堀川とんこ、松尾馬笑、森治美、西川阿舟

◇不在投句：大山勝美

◇兼題：杜鵑、雛鰯粟、蚕豆、撮り直し

【星野高士特選】

こぜ
暫女歌が越えし峠のほととぎす きよし

撮り直しきかぬ生涯不如帰 慶人

顔のまへ夏蝶よぎり撮り直し 阿舟

蚕豆の皿蚕豆のやうな客 まつり

そら豆の一粒床に落ちてあし きよし

をばすて
姥捨の駅小さくてほととぎす きよし

言いそびれ辞すればなびく虞美人草 康夫

ひなげしの風の溜りに咲き集ふ 備後

【星野高士選】

つま
蚕豆を摘みつ御夜を嘆きつゝ 備後

青風レフなぎ倒し撮り直し 勝美

病床の耳に届きしほととぎす 治美

鯉のぼり子供へ口出し撮り直し 勝美

朱の橋の奥の闇よりほととぎす 備後

急流を縦に切り裂くほととぎす とんこ

リテイクはおさまるを待つ青風 治美

ひなげしに三日の留守をゆるされず まつり

今だけは泣かせて夜のホトトギス とんこ

雛鰯粟や想へば我も四面楚歌 慶人

独り居の風邪寝三日のホトトギス 康夫

明日ありと氣をとり直す葛蒲風呂 曉蛙

ほととぎす息整えて風の音 康夫

そら豆を莢ごと焼けば焚焦げる 規郎

そらまめや晴れのち曇りまた晴れた 康夫

機関車は静態保存ほととぎす きよし

ひなげしに小雨のまゝの午後であり 備後

杉山に姿さがせどほととぎす 麻衣子

夏祭ガメラがゆれて撮り直し 馬笑

闇連れて帰路急げよほととぎす 麻衣子

ゆうらゆら風の足音ひなげしに 麻衣子

溪ひとつ渡りたるやもほととぎす 備後

アスファルトひなげしの影首長く 麻衣子

持て余す牧の広さやほととぎす もとを

アドリブは駄目とリテイク檉落葉 阿舟

群生のひなげし別くる風の道 治美

そら豆を猫と分け合ひ街に老ゆ 曉蛙

蚕豆の生るやなるほど空を向き 阿舟

ほととぎす一度も聞かず喜寿過ぎぬ 曉蛙

若葉背に撮り直せども同じ顔 慶人

夏風が帽子をさらひ撮り直し 馬笑

【会員互選】

ひなげしの朱色は風を囲みけり きよし

雛げしの雨に開きて風に散る 曉蛙

ほととぎす梢渡りて海のぞむ 治美

廃線に咲けるひなげし北軽路 とんこ

声はよし姿おぞまし杜鵑 阿舟

避難者はほととぎすにも涙して 規郎

ひなげしや交通事故のあつた角 規郎

ひなげしの花びらカシミヤティシューか 規郎

な 康夫

蚕豆やあくばもて莢とび出しぬ もとを

ひなげしの咲き満ちて紅こぼれけり 勝美

空豆だ空豆空豆ビールぐいつ 備後

鳴神の去ぬるを待ちて撮り直し 備後

雨の夜にいつそ狂はしホトトギス とんこ

ほととぎすひと声のあと山静か とんこ

意味不明リテイク続き灯虫来る まつり

籠りをりたき日にくどく不如帰 まつり

夏料理たちまち消えて撮り直し 規郎

撮り直しすれば散りけりアマポーラ もとを

項羽つて元カレなのよポピー咲く 阿舟

道ならぬポピーの丘をふたり行く 慶人

蚕豆をサヤごと焼きし小宴会 治美

蚕豆を剥く手止まらぬ母娘の夜 麻衣子

そら豆を莢ごと焼いてコップ酒 もとを

【選者吟】 星野 高士

撮り直してスタヂオの薄暑かな

肺病は喉美しやほととぎす

時鳥心の隙間突いて鳴く

ほととぎす夜明けを告げてゐるしじま

リテイクやばらの位置など少し変へ
蚕豆や主役脇役いづれとも
雛鰯粟に触れゆく指を選びをり

次回放送人句会

◇7月10日(水) 18:00頃から19:00投句
締切

◇赤坂・麦屋 (FAX:03-5568-0060)

◇兼題：青風、サン格拉斯、金魚、ダメ出し

OLD TWITTER

戯れ歌や狂歌の類いは人生50年を全う
した御仁の思い入れが多い。例えば、
目には眼鏡齒には入れ歯でまにあえど
古のこぎりの引き手無き身は
と鉢のパーツの衰えを嘆けば、
憂きことも嬉しき折りを過ぎぬれば
ただあけくれの夢ばかりなる
と、光琳の実弟尾形乾山は悟ります。

乾山のペシシズムを老いの感傷だと反論し
たのが講釈師の深井志道軒。
穴を出て穴に入るまで世の中に
トトン頓着せずに来しめ

そんな志道軒を羨むのが啄木で
それもよしこれもよしとある人の
その気軽さを欲しくなりたり
そうは言っても年相応である。

いつみてもさてお若いと口々に
ほめそやされる歳ぞくやしき
おしまいは川柳と俳句でしめて
孫の手で掻くは浮世の痒みかな
寝て起きて良き夜に住むひとり哉 巖太祇

(M)

【あ】青木裕子 赤井朱美 秋田完 秋山豊寛 雨宮望 新井和子 【い】池田正之 石井彰 石井ふく子 石高健次 石橋冠
磯野恭子 磯村健二 市岡康子 市村元 一色伸夫 伊藤雅浩 井上良介 今井義典 岩澤敏 【う】上村忠 碓井広義 臼杵敬子
歌田勝彦 宇野昭 【え】江口展之 遠藤利男 遠藤ふき子 遠藤雅充 【お】大蔵雄之助 太田敬雄 太田昌宏 大西康司 大多亮
大西文一郎 大原れいこ 大山勝美 大類啓 岡弘道 岡田晋吉 緒方陽一 岡村黎明 小河原正巳 沖野暁 荻野慶人
小田久栄門 織田晃之祐 【か】加賀美幸子 各務孝 片岡敬司 勝部領樹 葛城哲郎 加藤滋紀 加藤迪 加藤義人 金沢敏子
金子登起世 兼歳正英 金平茂紀 加納孝夫 鎌内啓子 上安平冽子 鴨下信一 川口健一 川口幹夫 河村正一 【き】岸田功
北川泰三 北川信 北出晃 北村美憲 北村充史 木村成忠 【く】楠美昌 工藤英博 久保志穂 隈部紀生 【こ】小池勝次郎
河野尚行 児玉久男 後藤和晃 小南武朗 小山師人 近藤晋 今野勉 【さ】斉藤伸久 斉藤秀夫 斎明寺以玖子 酒井美樹男
寒河江正 坂元良江 桜井均 佐々木彰 佐々木欽三 佐藤年 澤田隆治 沢田隆三 【し】重延浩 重村一 静永純一 志津木敬
柴田昌平 四宮康雅 嶋田親一 清水満 下崎寛 下重暁子 白井博 【す】菅野高至 杉澤陽太郎 杉田成道 鈴木嘉一 鈴木昭典
鈴木典之 鈴木道明 須磨章 【せ】せんぼんよしこ 【そ】曾根英二 【た】高島秀之 武本宏一 田澤正稔 田中昭男 田中秋夫
田中直人 田中則広 田原英二 田原茂行 【つ】辻本昌平 露木茂 鶴橋康夫 【と】土居原作郎 堂本暁子 戸田佳太 外崎宏司
豊田由紀子 豊原隆太郎 【な】中崎清栄 中島僚 中田美知子 永田浩三 長沼士朗 永野敏一 中村敦夫 中村克史 中村季恵
中村耕治 中村敏夫 中村美美子 中山和記 難波秀哉 【に】新村もとを 西ヶ谷秀夫 西川章 二宮文彦 丹羽美之
【の】信井文夫 【は】橋本潔 林健嗣 原由美子 原田令嗣 【ふ】深町幸男 藤井チズ子 藤久ミネ 【ほ】星田良子
堀川とんこう 【ま】前川英樹 松尾羊一 松平定知 松前洋一 松本修 黛りんたろう 【み】三上義智 水上毅 水野憲一
三原治 三村景一 三村千鶴 宮川鏡一 三宅恭次 明神正 【む】村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】諸橋毅一
【や】八木康夫 矢島良彰 藪内広之 山県昭彦 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 山根基世 【よ】横山英治
吉澤保 吉永春子 吉村直樹 【わ】渡辺紘史

新会員紹介

小山師人（こやまおさひと・元NHK）

NHKで報道・映像取材。現代の映像「空からの衝撃」、土曜レポート「盲人ランナー」の記録の映像取材を担当。共著に「非営利放送とは何か」「ネット時代のパブリック・アクセス」がある。現在大阪在住。フリー。

訂正

前号の新会員紹介に間違いがありました。ご迷惑をおかけし、申しわけありません。訂正をお願いします。

太田亮 は誤りで、正しくは

大多亮 です。

四宮康雄 は誤りで、正しくは

四宮康雅 です。

四宮さんの紹介には更に多くの間違いがありますので、左記に差し換えてください。

四宮康雅（北海道テレビ、元NTV）

報道局報道制作、報道（社会）部、おもな作品。「風の王国」（ギャラクシー賞、高柳賞など）、SPドラマ「ひかりのまち」（企画・原案で国際エミー賞・ファイナリスト。SPドラマ「六月のさくら」「うみのほたる」「歓喜の歌」「ミエルヒ」など9年間プロデューサーを務め、5回の芸術祭、民放連賞など。国際エミー賞ドラマ部門審査員3度など地域発ドラマの基盤を作り上げる。

☆只今、新会員募集キャンペーン中です。お心当たりの方はご連絡、事務局まで。

編集後記

▼放送人グランプリは今年贈賞が8本と多く、授賞式の参加者数、時間など事務局は大変でした。無事終わってよかったですね。皆さま御苦勞様▼懇親会ではおいしい料理に目がくらみ、写真撮影がおそろそになりました。録音もヴォイスレコーダーを2台使ったのですが、会場は歓談で盛り上がり、録音された騒音の中からスピーチを拾い出して記録するのは至難のわざでした。次回は対策を考えます▼今回菅野さんがどうしても都合がつかず、「いろはに時代劇」は休載です。次号をご期待ください▼（視郎）

2013日韓中テレビ制作者フォーラム

2013年10月14日（月・祝日）～17日（木）

中国・江蘇省・無錫市

無錫は人口600万人、蘇州の西隣に位置します。古来「魚米の郷」と呼ばれる豊かな土地で、1937年、日本軍の入城の際街が破壊され1万4千人が犠牲になった不幸な歴史がありますが、いまや1000社を超える日本企業が進出、無錫の経済発展に大いに貢献しています。日本人観光客の多いところです。

●フォーラムの詳細が決まるのはこれからです